

総括

北東アジア経済発展国際会議
実行委員長 吉田 進

雪が降る中での2日間にわたる国際会議にご出席いただき有難く、お礼申し上げます。各位の参加と協力を得て、この会議もまもなく成功裏に終了しようとしている。

1. アメリカで発生した金融危機は、北東アジア各国へ大きな影響を及ぼした。日本への影響も大きく、10 - 12月のGDPは前期比3.3%減となった。各国では、予期しなかったこの経済の混乱への対策を講じ、新たな展開を模索中だ。このような時期にこそ北東アジアの将来像を明確にし、成長戦略を決め、景気対策を実施していく必要がある。
2. 2月13 - 14日にローマで開かれた7カ国財務相・中央銀行総裁会議（G7）では、今後なお一層の追加投資と保護主義の封じ込めが必要であると強調された。同時に、4月に開かれる第2回20カ国会議（G20）に大きな期待が寄せられた。
G20には中国とロシアが入っている。今回の危機からの脱出に、東アジアとならんで北東アジア各国の対策が注目されている。この時期にこの北東アジア経済発展国際会議が開かれたことは、時宜に適しており、重要な意義がある。
3. 基調報告では、ロシア、中国、日本、その他各国の国内対策が紹介され、北東アジアにおける協力体制強化のための提言がなされた。その中で、各国間の信頼性を向上し協力の精神を育てること、この地域の知的ネットワークを構築することの重要性が論じられました。特に、日中韓3カ国首脳会議の継続が重要であるとともに、それに併せロシア、モンゴルなどを含めた北東アジア構成国首脳の非公式会談を計画すべきだという提言がなされ、また、ASEAN + 3 + 3（ロシア、モンゴル、将来的には北朝鮮）が望まれるとの発言があり本会議の注目を浴びた。
4. 分科会では、北東アジアの省エネルギー、食料安全保障、環境協力、物流分野における協力、その現状と問題点が検討された。また今後に向かって多くの提言がなされた。
5. 今後の方向としては、エネルギー、環境、物流・観光、食料分野に、貿易・投資、金融をプラスした各分野において、それぞれの協力形態を継続・発展させ、エネルギー安全保障、エネルギー共同体、省エネ・環境技術の紹介・普及、金融協力、食料安全保障、日本海航路の開設やモンゴル東部鉄道の建設など北東アジア輸送回廊の発展、北東アジア国際観光フォーラムの継続、北東アジア開発銀行設立等の構想の具体化などが重要であり、北東アジア経済圏の形成と発展はこれら諸分野の協力発展に依拠するものである。
今回の会議は、その一端を担うもので、会議で出された具体的な提案を参加者が持ち帰り、各国政府機関や各種会議で報告し、それを更に発展させ、実施することになる。

金融危機の下で、政府組織と民間の協力が各分野においてより一層強く求められている。われわれの国際会議はトラック2、すなわち官、民、学会、経済界から構成される会議として、各国政府と関係を取りながら、今後とも北東アジア各国間の各分野の交流と協力を強化していく所存である。

最後に、会議を通じて尽力いただいた通訳各位、会議の進行に協力いただいた関係各位に感謝申し上げます。